



中学生議会を開催しました



12月23日（火）に主権者教育の一環として、中学生議会を開催しました。当日は、坂祝中学3年生が議場を訪れ、そのうち代表の6人が議員となり、町議会定例会の一般質問しながらに日ごろの疑問について質問し、議員が執行部に代わり答弁をしました。（※表紙写真）

3年1組

もりた ちひろ
森田 千尋 議長



3年2組

やまもと ゆうし
山本 佑至 議長



3年1組

1番 今尾 四葉 議員

現在、坂祝町では地区間のつながりが希薄であると感じます。この状況を改善するため、令和元年まで行われていた「手作り町民運動会」の復興を提案します。町民が計画段階から協力して運営に携わることで、単に競技を楽しむだけでなく、地区を越えた新たな絆や、やりがい生まれます。この行事を通じ、誰もが「住み続けたい」と思える活気ある町づくりを目指したいと考えています。

問 坂祝町の行事の復興について



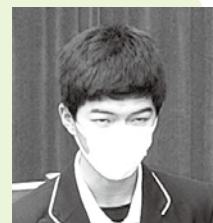
答 教育長役（宮内 聡樹 議員）

長年親しまれた「手作り町民運動会」は、コロナ禍や自治会の担い手不足、準備負担の増大により、継続が困難となり中止を決定しました。現在は、持続可能な新たな形として「スポーツレクリエーションフェスティバル」を開催しています。今後は、自治会対抗という従来の枠組みを超え、町民が企画・運営から主体的に関わることで、新たな交流や絆を育む場となることを目指します。中学生の参画も促し、誰もが「住み続けたい」と思える楽しい町づくりに繋げていく考えです。

2番 藤井 瑚太郎 議員

坂祝駅周辺を活性化するため、駅を「通過する場所」から「立ち寄りたくなる場所」へ変えることを提案します。具体的には、特産物の販売や休憩・交流スペースの設置を行い、人の流れを創出します。これらをきっかけに飲食店等の出店を促し、活気ある駅周辺を目指したいと考えます。

問 坂祝駅周辺の活性化について



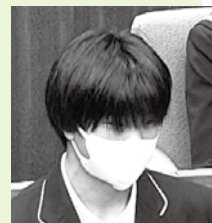
答 企画課長役（佐藤 猛 議員）

駅を「立ち寄りたくなる場所」にする視点は重要であり、特産物販売などの提案は賑わい創出の好機となります。店舗建設については、持続可能性の観点から町が直接行うのではなく、補助金事業等を通じて民間の挑戦を支援する方針です。また、休憩・交流スペースの設置は、現計画にはありませんが今後の検討課題とします。今後は郵便局との一体化施設整備を進めつつ、若い世代のアイデアを活かし、官民連携で持続可能な駅周辺の活性化を目指してまいります。

3番 田口 瑛叶 議員

坂祝町のふるさと納税寄付額を増やすため、利用者が多い20～30代をターゲットに絞ることを提案します。特産物のセット販売や、クラウドファンディングによるキャンプ場等の建設で若者の需要を捉え、SNSで情報を発信すべきです。寄付金を活用し、活気ある町づくりに繋げるためのご検討をお願いします。

問 ふるさと納税とその使い道について



答 町長役（松田 和樹 議員）

ふるさと納税寄付額 3,000 万円を目標に、20 ～ 30 代を標的とした戦略や返礼品の発掘に注力します。新商品の開発やクラウドファンディングは、事業者の負担や PR 等の課題を慎重に検討しつつ、成功例を参考に進める考えです。キャンプ場等の斬新な提案については、収入安定後の施策候補として検討いたします。

4番 横幕 莉子 議員**問 子どもたちが安全に暮らせる町づくりについて**

公園や通学路などの公共施設へ、時計の設置を提案します。現状、屋外で正確な時刻を確認する手段が乏しく、子どもたちが暗くなる前に帰宅したり、中学生が塾などの予定に合わせて行動したりすることが困難です。子どもたちが時間を意識して安全・安心に活動できるよう、時計の設置をご検討ください。

**答 教育課長役（林 重光 議員）**

時計は生活リズムを整える大切な設備ですが、町内 17 箇所の公園には現在設置されておらず、防災無線の時報がその役割を代替しています。時計塔の新設には 1 台約 50 万円の費用を要するため、今後の公園や通学路への設置については、自治会や住民の要望、利用状況を基に慎重に検討します。あわせて、中学生のタブレット持ち帰りが実現すれば登下校時の時刻確認が可能となるため、その運用についても検討を進めてまいります。

5番 山田 容子 議員**問 給食で活性化する坂祝町について**

誰もが坂祝町の魅力である給食を楽しめる食堂の設置を提案します。低価格で提供し、町民の絆を深めるだけでなく、町外への PR や移住促進、中高生の食育ボランティアの場としても活用します。運営費は募金や町の支援で賄い、給食を通じて町を活性化させたいと考えます。ご検討をお願いします。

**答 こども課長役（松田 賢治 議員）**

若い世代の食への関心低下が課題となる中、本町は教育の一環である学校給食を食育の要と捉えています。ご提案の「給食を提供する食堂」については、県から高く評価された受賞献立の活用や、町行事、こども食堂、地域商店街との連携など、年数回からの実施を検討します。地域住民を巻き込んだ活動を展開するとともに、「こどもの権利に関する条例」に基づき、今後も生徒の主体的な意見表明や社会参画を後押しして参ります。

6番 川地 絢也奈 議員**問 さかほぎ町民まつりの規模拡大について**

町民まつりの規模拡大と 2 日間開催を提案します。塾等の予定で参加できない生徒やお祭りの規模に物足りなさを感じる人がいます。土日開催にすることで参加機会を増やし、さらに総合運動場での地域密着型のマルシェ開催により、特産品販売や町民交流を活発にしたいと考えます。誰もが楽しく、充実した生活ができるよう提案します。

**答 副町長役（竹内 浩一 議員）**

町民まつりの 2 日間開催は、スタッフ不足や安全コスト、近隣への影響といった課題があり現在は 1 日としています。他町村の事例を調査し、次年度以降の検討課題とします。早期の実現に向けては、時間の延長や中学生が企画に携わる枠組みなど、段階的な拡充を模索します。また、運動場でのマルシェ等についても、商工会や農協等の関係団体へ協力を働きかけ、多世代が交流できる活気ある祭りの実現に向け取り組んで参ります。